

ペヘレイ放流効果調査について - II

高橋昭夫・村山隆夫

昭和41年9月及び10月、アルゼンチンから発眼卵で移植したペヘレイ (*Odonthestes bonariensis*) は、その後順調に成長し、当场において採卵ふ化、飼育が可能になり種苗生産の実用化も図れるようになったので、昭和43年以降、津久井湖および相模川に放流し、天然水域での生息および繁殖等について調査を実施しているので、その概要について報告する。

調 査 方 法

放 流 数

放流数は、表-1のとおり、昭和46年までに27,600尾を放流し、今年度は津久井湖三井地先へ0年魚30,000尾を放流した。
放流方法は、前年度と同様に、当场の活魚輸送車を使用し、放流点に集中放流した。

表-1 ペヘレイの放流数

放流年月日	放流場所	放流尾数	全長(㎝)	体重(♂)	年令
42. 10. 17	津久井湖	600	18.4	60.8	1
44. 9. 22	相模川	1,000	7.4	3.0	0
44. 9. 25	津久井湖沼本	7,800	7.2	3.1	0
45. 9. 10	"	7,200	8.8	4.0	0
"	"	1,000	0.9	(ふ化後30日)	0
46. 9. 28	" 三井地先	10,000	82.1	4.6	0
47. 8. 16	"	10,000	65.1	2.1	0
47. 11. 1	"	20,000	72.1	2.2	0

漁 獲 方 法

試験漁獲は前年度と同様で、津久井湖畔の日赤病院下と名手橋上(図-1)の2ヶ所に定点を定め毎月当场職員により刺網を使用して行なった。刺網は、8. 10, 12, 14, 16, 18節を各定点に1反ずつ表層に設置し、前日の14～15時に網を入れ、翌日の9～11時に網上げを行なった。また、津久井湖周辺の釣舟屋等に釣人による漁獲について連絡を依頼した。

結 果 と 考 察

再 捕

前年度までの再捕尾数は67尾で、今年度の再捕尾数は、表2のとおり15尾であった。
再捕場所は、図-1、図-2のとおり、津久井湖で9尾、下流の相模川で6尾が再捕された。相模川での再捕は昨年までに2尾だけで

表-2 昭和47年度再捕実績

No	再捕月日	再捕場所	全長(㎝)	体長(㎝)	体重(♂)	雌雄	漁法	再捕者
1	47. 4. 3	日赤下	29.1	24.6	195.0	♂	釣り	人
2	5. 24	st. 1	19.3	16.3	63.8	♂	浮刺網	当 場
3	5. 24	"	21.9	18.8	84.2	♀	"	"
4	7. 16	相模川小倉橋	30.1	25.8	230.0	♂	投網	漁業協同組合員
5	"	" 東名橋	30.2	25.4	230.0	♂	"	"
6	8. 6	" 田名	31.0	25.8	214.0	♀	"	"
7	8. 29	st. 1	26.1	22.1	150.0	♀	浮刺網	当 場
8	"	"	23.2	19.7	103.0	♂	"	"
9	"	st. 2	24.2	20.3	125.0	♀	"	"
10	9. 26	相模川小倉橋	33.2	28.6	305.0	♀	投網	漁業協同組合員
11	9. 28	" 神川橋	36.1	31.2	450.0	♀	"	"
12	"	"	23.2	19.4	85.0	♂	"	"
13	11. 17	沼 本	32.5	27.7	273.0	♀	釣り	"
14	48. 2. 8	"	40.0	—	—	♀	"	釣 人
15	"	"	39.5	—	—	♀	"	"

- 1) 昭和44年度指定調査研究総合助成事業在来マス類研究報告書 水産庁調査研究部第二課
- 2) 昭和45年度指定調査研究総合助成事業在来マス類増殖研究中間報告書
- 3) 津田松苗 1962 水生昆虫学 北隆館
- 4) 西原隆通・高橋昭夫・山崎 尚・三栖 実 ヤマメの放流試験Ⅰ 本報9号
- 5) 西原隆通・高橋昭夫・三栖 実 ヤマメの放流試験についてⅡ 本報10号